



聖書
テーマ
暗唱聖句

ミカ5・2～5
イスラエルを治める者
だが、あなたからわたしのために／イスラエルを治める者が出る。 ミカ5・2

目標

平和の神のご支配の中を生きる者となる。

1月2日(日)

聖書
聖句

ミカ5・2
だが、あなたからわたしのためにイスラエルを治める者が出る。 2節

りっぱな服を着て、りっぱなお仕事をしている人を見ると、きっと、とくべつな家庭に生まれて、そういうふう生きるようにえらばれた人なんだ…って思うことはおおいよね…。

でも、神様の「えらびかた」はどうだろう？
りっぱな大都市エルサレムではなく、王様のおうちからでもなく、貧しくてなにもない、だれからも見てももらえないちっぽけなベツレヘムのエフラタという民族から、イエス様を誕生させると約束してくださったね！ しかもイエス様が生まれる何百年も前にはっきりと！

いの祈り

天のお父様、あなたの不思議なお約束によって、イエス様が生まれてくださったことを感謝します。

1月3日(月)

聖書
聖句

ミカ5・2
あなたはユダの氏族の中で、あまりにも小さい。／だが、あなたからわたしのために／イスラエルを治める者が出る。 2節

自分のしたこと、持っているものを「どう？すごいでしょう」と人は言うよね。だからこそ、神様はりっぱで有名な人でなく、あえて、いちばん小さく弱く見える人をえらぶんだ。

そうすると、だれから見ても「あなたってすごい」ではなく「神様ってすごい」としか言えないでしょう。神様の知恵はすごいね！

自分なんてつまらない、ダメな人間だと思っているあなた、神様は、あなたを通して素晴らしいことをしたいと願われているよ。

いの祈り

天のお父様、こんな小さなわたしでも用いてくださることを信じて、ありがとうございます。

1月4日(火)

聖書
聖句

ミカ5・2
その出現は昔から、／永遠の昔から定まっている。 2節

この預言が書かれたのは、イエス様が生まれる何百年も前だけど、神様はいつから、わたしたちにイエス様の救いが必要だって考えておられたのかな？

それは、「永遠の昔から」だって。
人が思いだせる昔のことではなく、人がまだ地球に生まれていない、神様だけが知っておられるところからきまっていたって！

神様の計画はかならず起こるということを、長い歴史の中で見て、知っているわたしたちは、ほんとうに幸せだね。あなたの救いも、神様は計画の中に入れてくださっていたんだね！

いの祈り

天のお父様、ご計画のとおりイエス様が生まれたこと、わたしの救いもあなたの計画の中にあることを、感謝します。

1月5日(水)



ミカ5・3

彼らはそのままにしておかれる。
産婦が子を産む時まで。 3節

お母さんが命がけで、どんなに苦しくても、あきらめないで赤ちゃんを生むの、知ってる？ 苦しいからや～めた！ってなげだしたら、新しい命は生まれてこないよね。苦しみの先に、新しい命に出会う喜びがまっているんだね。

イエス様を信じて生きるときに、「どうしてこんなに苦しむの？」ということが起きるかもしれないね。でも、それは必要のない苦しみではない、と思うんだ。その苦しみを、希望もつてのりこえた人には、神様は言葉にできないくらい祝福をくださるよ！

祈り 天のお父様、苦しみをのりこえる力をください。そして、祝福を受けとることが出来ますように。

1月6日(木)



ミカ5・4

彼は立って、【主】の力と、彼の神、【主】の御名の威光によって群れを飼う。そして彼らは安らかに住まう。 4節

この時代のイスラエルの指導者は、悪を好んで行い、弱い人々を助けるどころか苦しめました。正しいことをねじまげているのに、それを悔い改めなかったのです。

神様を心からおそれず、罪が見えない、自分がよければほかの人はどうでもいいというのは、救われる前のわたしたちもおなじだね。

だから、本当の正義が行われ、安心して生きるためには、まことの指導者である救い主がぜひたいひつようなんだね。イエス様がみちびいてくださることがひつようなんだね！

祈り 天のお父様、わたしたちにはイエス様のみちびきがぜひたいひつようです。

1月7日(金)



ミカ5・4

今や彼の威力が、地の果ての果てまで及ぶからだ。 4節

有名な場所でもなんでもない、ちっぽけなベツレヘム。それを地球儀でさがしたら、きっとゴマつぶよりもちっちゃいだろうな。

でも、このゴマつぶよりもちっちゃい場所からイエス様が約束のとおりお生まれになったね。

そして、今はどう？ 全世界に知られ、世界中に、イエス様を信じる人がいるのだからほんとうにびっくりだね！ この日本にも、わたしたち一人一人にも救いがとどいたなんて！

まさに「地の果てに及ぶ」だね！ このおどろきと喜びをだれかに伝えたいと思わない!?

祈り 天のお父様、あなたのお言葉がここまでとどいたことを、だれかに伝えることができますように。

1月8日(土)



ミカ5・5

平和は次のようにして来る。 5節

神様はね、くらい、悪い、どうしようもない世界であっても、また、どんなに悲しんでいる人にも平和を与える方法を知っておられるんだ。イエス様もそう。わたしたちに永遠の命や天国の希望をくださるために、来てくれたでしょう。

それは、この地球のどこを探しても、絶対見つけ出すことができない、人間から人間には与えることができないものだよね。

神様があなたに「あげよう」と言ってくださる本当の平和、イエス様の約束を、どうか受け取って、これからも歩んでいこうね！

祈り 天のお父様、あなただけが知っておられ、あなただけがくださる本当の平和をいただいて、歩んでいきます。



聖書
テーマ
暗唱聖句

マルコ 1・14～15
神の国は近づいた
神の国は近づいた。時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。

目標

マルコ 1・15
約束されていた神の国がキリストを通して始まったことを知る。

1月9日(日)

聖書
聖句

マルコ 1・14～15
悔い改めて福音を信じなさい。
15節

今日から、「キリストの教え」について学びます。イエス様が30歳になられて神の国の福音を伝え始められました。「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と。あなたは人が死ぬとどうなるか、どこへ行くのか、知っていますか？ 重大問題ですね。イエス様は神の国を伝えるに来てくださいました。神様の前に罪をおわびして、イエス様の十字架の身代わりを信じて、罪をゆるしてもらって神の国に入れるのです。死んだ後も永遠に。

いの祈り

天のお父様、永遠の神の国に入れる道を備えて下さり感謝します。悔い改めてイエス様を信じて入りたいです。

1月10日(月)

聖書
聖句

マタイ 7・13～14
狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広く、そこから入って行く者が多いのです。13節

「赤信号、みんなで渡ればこわくない」。この考えは滅びにつながる広い道で、大きな門です。みんながやってるから、と罪を犯し続けていけば、広い滅びへの道を歩いているのです。そんな人が多いとイエス様も言われます。でも「狭い門から入りなさい」と招いておられます。それはどんな門かといえば悔い改めの門です。そしてそれは命にいたる大切な門です。命にいたる道は細いので歩くのも困難です。自分一人やっと歩けるくらいかもしれません。

いの祈り

天のお父様、狭い悔い改めの門を通り、正しい道、命の道がどの道であるかを知って、しっかり歩ませてください。

1月11日(火)

聖書
聖句

Iヨハネ 1・5～10
もし私たちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。
9節

悔い改めを、きちんとすることはとても大切です。それは、自分の罪を告白することです。それによって、自分がどんなに罪深い人間であるのかが、ハッキリとわからせてもらえるからです。そしてそんな私の罪を悲しんで、身代りに十字架に死んでくださった救い主イエス様を仰ぐことです。それによって、「子よ、しっかりしなさい。あなたの罪は赦された」(マタイ 9・2)と、真実な神様から罪のゆるしを宣言していただけます。

いの祈り

天のお父様、悔い改めることは恥ずかしい狭い門ですが、しっかり悔い改めて、全部ゆるしていただけますよう助けてください。

1月12日(水)

聖書
聖句

I コリント 15・1~8

この福音によって救われます。
2節

パウロ先生が伝えた「この福音」によって「救われます」と、力強く記しています。パウロ先生が最も大事な事としてコリントの人々に伝えたのは、自分自身も受けたことだと言います。それは聖書に書かれてあるとおり、キリストがわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、3日目によみがえったこと、そして現れてくださったことだと言っています。そうです。イエス様の十字架と復活です。あなたもこの福音を信じていますか？

いの祈り

天のお父様、イエス様の十字架と復活の福音こそ、すべてのすべてです。信じる人が救われることを感謝します。

1月13日(木)

聖書
聖句

ローマ 1・16~17

私は福音を恥としません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です。
16節

「イエス様のことや教会のこととか、お友達には恥ずかしくて言えないな」と思いますか？ とんでもない！ と返事をするのはパウロ先生です。「わたしは福音を恥としません」。イエス様のすばらしい救いのグッド・ニュースです。ニュースはどんどん伝えるべきです。しかもこの福音、このグッド・ニュースとさえ、これを信じるならば救われるというのですから！ ユダヤ人、ギリシア人、全世界の人々の救いの福音です。

いの祈り

天のお父様、本当に福音の力の大きいことを思います。多くの人の人生を変えてきたこの福音を伝えたいです。

1月14日(金)

聖書
聖句

エペソ 2・1~10

この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。 8節

私たちはみんなオギャーと生れたままだったら、罪の中に死んでいる者です。自分で自分を罪から救えないし、罪深い自分を変えることもできません。神様はそんな私たちをかわいそうに思ってください、イエス様をおつかわしてください、滅びの川から救い上げてくださいました。ただ一方的な神様の大きな愛とあわれみと恵みによって。その救い主イエス様をただ信じて、イエス様と共によみがえらせていただいたのです。感謝あるのみ。

いの祈り

天のお父様、あなたの変わらない愛とあわれみと恵みを感謝します。信仰によって救われました。信じ続けます。

1月15日(土)

聖書
聖句

II テモテ 2・8~13

イエス・キリストのことを心に留めていなさい。私が伝える福音によれば、この方は、ダビデの子孫として生まれ、死者の中からよみがえった方です。 8節

あなたはよくお手紙を書きますか？ もし、今から書く手紙が、地上での最後のお手紙だとしたら、何をかくでしょうね?! パウロ先生が地上最後のお手紙を、愛する息子のような弟子のテモテに書きました。「イエス・キリストのことを心に留めていなさい」でした！ テモテはしっかり心に刻んで、いつも、何をする時も、イエス様のことを思っていたことでしょう。私たちもそうしたいですね。

いの祈り

天のお父様、毎日いろいろなできごとがありますが、いつもイエス様のことを思っていることができますように。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 17・20～21
神の国は私たちのただ中に
見なさい。神の国はあなたがた
のただ中にあるのです。

ルカ 17・21

目標

神の国が、信じる者たちの間
は既に現実の恵みであることを
知る。

1月16日(日)

聖書
聖句

ルカ 17・21

見なさい。神の国はあなたがたの
ただ中にあるのです。 21節

イエス様とあなたはどんな関係ですか？
「イエス様はイエス様、わたしはわたし」って
感じ？ 一週間に一度教会でお話の中に出
てくるだけ？ それとも、毎日いっしょにいて、
どんなときもはなれない関係、だといいな？
神様の国は、イエス様を「わたしの救い主」
と信じる人の中に、もうあるんだ。イエス様が
愛されたように愛しあい、赦しあい、イエス様
が行われたように行い、その言葉に従うとき、
そこに神様の国があることがわかるんだよ！
自分のまわりに、神様の国があるか、点検し
てみてくださいね。

いの
祈り

天のお父様、イエス様とわたしの関係を
もう一度見つめなおします。

1月17日(月)

聖書
聖句

ルカ 17・20

神の国はいつ来るのか 20節

「神様がいるなら、わたしの人生がこんなふうになるはずがない！」「こんな悪いことが起きるはずがない！」という人たちがいます。

その人は、自分が神様の前にどんな者であるか、人が持っている罪というものがどんなものなのか、わからないでいるのです。そして、ざんねんなことには、自分が神様からどれほど愛されているか、気づこうとしないのです。

あなたは、自分の人生にも、神様が関わってくださっていることを認めていますか？

神様があなたをみちびきたいとねがう、その思いに気づいていますか？ みんなの心がそうであるようにお祈りしていきたいね。

いの
祈り

天のお父様、あなたがわたしの人生に関わってくださることを信じます。

1月18日(火)

聖書
聖句

ルカ 17・20

パリサイ人たちが、神の国はいつ来るのかと尋ねた 20節

イエス様の生きた時代、イスラエルはローマという大きな国に支配されていました。だから、イスラエルの人たちは、国が支配から解放されて、強い国になることをねがっていました。そしてそれが、神の国をつくりあげることだ！と考えていたのです。

でも、神の国を造るのはだれ？ 神様だよね！ 神様がわたしたちのためにつかわされたイエス様ぬきで、神の国はつくれないうね！

人はときどきまちがうのです。神の国をなんとか自分でつくれると。イエス様をとおして、神様の国はできていくんだってね。

いの
祈り

天のお父様、神の国のためにイエス様が来てくださったことを感謝します。

1月19日(水)



ルカ 17・20

神の国は、目に見える形^{かたち}で来るもの^{もの}ではありません。 20節

人はだれもが、「それがあつたらしようこそ見せてよ」という気持ちを持っています。このときのパリサイ人もそのような気持ちだったかもしれないね。

でも、神様は目に見えない、霊なるお方。人間のほうではなにも変わらず、なにも起きていないように感じる毎日^{まいにち}であっても、神様は、神様の計画を進めておられるのです。

その計画は「今じゃなきや認めない！」という人の思いをはるかに超えた、神様だけのタイミングで、すべての人に知られることになるよ。神様のタイミング、信じていますか？

いの祈り

天のお父様、今ではないかもしれませんが、すべてのことにあなたのタイミングがあることを信じて待ちます。

1月20日(木)



ルカ 17・21

『見よ、ここだ』とか、『あそこだ』とか言えるようなものではありません。 21節

今の時代はね、なにが本物で、なにがにせものかわからないことがたくさんあります。イエス様は、「いつも目をさましていなさい」って言ってたけど、そうしないといけないくらい、落とし穴がたくさんあるんだ。

「こっちが神様の国への道だよ」「わたしこそキリストだ」「これがあなたの幸せだ」と言われて、神様の悲しむ方へと迷い込んで行きたくない！ さあ、どうしたらいい？

それは、イエス様から目をはなさないで、イエス様はなんて言ったか、どうしたかを考えること！ イエス様について行くことだね！

いの祈り

天のお父様、イエス様から目をはなさず従い、神の国に入れますように。

1月21日(金)



ルカ 17・21

見なさい。神の国はあなたがたのただ中にあるのです。 21節

どんなものも始まりと終わりがあつて、ちょうど大きな建物が時間をかけて完成していくみたいに、ゴールとか完成してあるよね。

じつは、イエス様^{イエスさま}が来られて「神の国」はわたしたちの中に、たしかに始まったんだけど、まだ完成ではないんだ。

イエス様がもう一度、この地上に来られるときがあつて、それで完成なんだって。

わたしたちの世界には、まだ神様が悲しむ罪やできごとがたくさんあるけれど、そのときには、ただ神様だけがわたしたちをおさめてくださる、本物の「神の国」になるんだね！

いの祈り

天のお父様、あなたの国が完成しますように。よろこんでその日をむかえられますように。

1月22日(土)



ルカ 17・21

見なさい。神の国はあなたがたのただ中にあるのです。 21節

一週間、「もうある」けど「完成していない」神の国のこと、考えてどうでしたか？

神様は、すべての人を愛しておられるお方だから、神の国の完成をできるだけたくさんの人とむかえたいと思つているよね。

あなたといっしょにあなたの家族やお友達も、「神の国」の中に入れるようになるにはどうしたらいい？

あなたが「いっしょに神の国に入ろう」と、イエス様の愛を伝えていくってことだね。そのはたらきが、あなたにはあつてことだね。

ゴール目指して、歩いて行こうね！

いの祈り

天のお父様、わたしだけでなく、みんなとゴールできるために、わたしにできることをしていきます。



聖書
テーマ
暗唱聖句

黙示録21・22～22・5
神の国の完成
神の栄光が都を照らし、子羊が都の明かりだからである。

目標

黙示録21・23
神の国の光景の素晴らしさを知り、キリストを信じてそこに入る者となる。

1月23日(日)

聖書
聖句

黙示録21・23
神の栄光が都を照らし、子羊が都の明かりだからである。 23節

「おわり」ときくと、なんだかさびしく、かなしく、つらい気持ちになる人はいますか？ 聖書も、世界の「おわり」をおしえているね。

でも、このおわりは新しい、えいえんの世界の「はじまり」なんだって！ そこには、罪も、くらやみも、悪魔も、くるしみや涙もなく、ただ、きよい神様と、イエス様と、えいえんのいのちをもらった人たちだけがいるんだって。

あたらしい世界に行くかどうかは、あなたもきめられるよ。それは、イエス様が十字架で、あなたの罪のみがわりになって、死んでよみがえられたことを信じ、いつもイエス様といっしょに生きていくことによるのです！

祈り

天のお父様、イエス様の十字架とよみがえりを信じて新しい世界に行きます。

1月24日(月)

聖書
聖句

黙示録21・22
全能の神である主と子羊が、都の神殿だからである。 22節

目には見えないけれど、わたしたちを愛し、守り、いっしょにいてくださる神様！ そんな神様と、あなたは毎日お話していますか？ また、どうやってお話していますか？

お祈りの中で？ 聖書をよむとき？ 賛美するとき？ それから教会に行くときは、神様のところへ行ったような気持ちになるよね。

でもね、神様の新しい世界が来ると、教会なんてないんだって。だって、神様がそこにいて、えいえんに神様のところにいられるから。神様の目の前で礼拝し、お話できるなんて、すごいことだね！

祈り

天のお父様、あなたの新しい世界で、あなたの近くにえいえんにいられる日が早く来ますように。

1月25日(火)

聖書
聖句

黙示録21・24～26
こうして人々は、諸国の民の栄光と誉れを都に携えて来ることになる。 26節

むかしは、イスラエルの人たちだけ救われて神様のところに行くって思われてたんだって。でもね、イエス様が地上に来てくださって何もかもが変わったのです。何もかも！

どの世界に住んでいる人も、どんな生き方をしてきた人も、罪の中で苦しんでいた人も、罪をおわびし、イエス様の十字架を信じて、心をおわびし、心を開いて生きていくとき、いつかやってくる新しい世界へ、むねをはって「わたしは救われました！」とやってくるができるのです。

そうできる道を開いてくださったイエス様の救いはなんてすばらしいんでしょうね！

祈り

天のお父様、イエス様といっしょに、心をあなたに向けてあゆみます。

1月26日(水)



黙示録21・25

都の門は一日中、決して閉じられない。 25節

あなたのおうちでは、夜ねむるときや、ひとりですばんをするとき、げんかんのカギをガチャン！ とかけますか？ それはなんで？ それは、外には悪い人やどろぼうがいて、おうちに入ってきたらたいへんだからだよ！ でも、神様の新しい世界はいつも門が開いたまんまって！ え～だいじょうぶなのかなあ？

そう、新しい世界がやってきたとき、悪魔も、わたしたちがこわがるものもぜんぶ、神様が処分してくださってるんだって。そのときには、わたしたちの心の中にまで入ってきていた悪魔や罪ともたたかわなくてよい世界になるんだね。神様のご計画のすばらしさ！

祈り 天のお父様、悪魔も、罪もない、新しい世界のご計画を感謝します。

1月27日(木)



黙示録21・27

しかし、すべての汚れたもの、また忌まわしいことや偽りを行う者は、決して都に入れない。 27節

学校に行くときには、いつも教科書や運動着をもって、忘れ物をしないようにでかけるよね？ それは、学校に行くならあたりまえのことだからと思うよね？ じゅんぴは大切なんだ。

神様の新しい世界に行くのにも、大切なじゅんぴがあるよ。そこには罪が入っちゃいけない！ 絶対のこと！ 神様はあなたを愛していても、罪があるままでは、迎えられないんだ。

その罪の心をとりのぞくためにイエス様は十字架で死んでくださったのです。それを信じ、罪の生活をすてて生きること、これが新しい世界に行くための大切なじゅんぴなのです。

祈り 天のお父様、罪をすてて生きる、という大切なじゅんぴをしていきます。

1月28日(金)



黙示録22・1～2

その木の葉は諸国の民を癒やした。 2節

新しい神様の世界では、都の真ん中にいのちの水の川がながれ、川のほとりにはいのちの木があるんだって！ その川はね、わたしたちを造られ、愛し、ゆるし、生かしてくださる、神様からながれてくるよ。

人の心や魂は、いつも「わたしを愛してくれないかなあ、あの人わたしに良くしてくれないかなあ」とカラカラにかわいています。

でも、神様のいのちの水をのみ、その実を食べ、そのしげみに憩う人は、心の傷もすっかりなおり、神様の愛やゆるしやいのちでいっぱいになって、それがえいえんにあふれでるよ！

祈り 天のお父様、あなたの水と実と葉でいやさされて、いのちや愛やゆるしでみたされる日が、わたしにも来ますように。

1月29日(土)



黙示録22・3～5

神のしもべたちは神に仕え、御顔を仰ぎ見る。 3～4節

むかしの考えでは、神様の顔を見たら、その人は死ぬと言われていました。そう、罪のせいで、罪にまみれて生きているわたしたちが、愛と聖さしかない神様と顔をあわせるなんてとんでもないこと！ それでも、聖書や毎日の生活の中で、神様がどんなお方か、すこしずつわかるようになってきたね。

でもね、新しい世界ではちがうって！ 顔と顔をあわせて神様に会うって！ イエス様によって罪はぜんぶとりさられ、よろこびいっぱい神様を礼拝できるんだ！ そのとき、ああ、神様はこんなにもすばらしいお方だったんだ、とはっきりわかるようになるだろうね！

祈り 天のお父様、よろこびいっぱいあなたの顔を見られる日をまち望みます！



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 9・21~27
十字架を負って従う
だれでもわたしについて来たい
と思うなら、自分を捨て、日々自
分の十字架を負って、わたしに
従って来なさい。 ルカ 9・23

目標

十字架に向かって歩まれたキリ
ストを覚え、十字架を負い、従う。

1月30日(日)

聖書
聖句

ルカ 9・23
だれでもわたしについて来たいと
思うなら、自分を捨て、日々自分の
十字架を負って、わたしに従って
来なさい。 23節

悲しいことや苦しいことがおきると「十字架
を背負ってる」とか、イエス様に従うために
は、苦しみながら従わないといけないって思
う人もいます。それホント？

だって、本当に十字架について苦しんだのは
あなたじゃなく、イエス様だもの。

だから、イエス様があなたの罪を背負って
十字架にかかれたことを、どんなときもわす
れず、今までの自分勝手な生き方を捨てて、新
しくなって生きていく、それが自分の十字架を
負う生き方だね！ イエス様ありがとう！

祈り

天のお父様、わたしのための十字架をわ
すれず、生きていきます。

1月31日(月)

聖書
聖句

ルカ 9・21~22
イエスは弟子たちを戒め、このこ
とをだれにも話さないように命じら
れた。 21節

あなたは、イエス様をどんなお方だと思いま
すか？ おねがいを聞いてくださる方？ 病氣
を治してくださる方？ こまったときに助けて
くださる方？ きっと色々思いつくでしょうね。

人はみんな救い主ってこうだよ、ああだよ
ね、とイエス様を見つめていたと思うけれど、
イエス様を知ってほしいことはもっとべつ
のことだったって分かるかな？

イエス様はあなたにも「本当のわたしのこ
とを知ってほしい」とねがっておられるよ。

祈り

天のお父様、イエス様が、わたしに知っ
てほしいとねがわれることを、正しく分
かることができますように。

2月1日(火)

聖書
聖句

ルカ 9・22
人の子は多くの苦しみを受け、長老
たち、祭司長たち、律法学者たちに
捨てられ、殺され、三日目によみが
えらなければならない 22節

人々は、イスラエルを今苦しめているローマ
から助けだすのが救い主だと思っていました。
だから、その救い主が苦しみ、捨てられ、殺さ
れるなんてありえない！ と思ったでしょう。

でも、死んで終わりではなくよみがえること、
さらにただの王様ではなく、やがて永遠につづ
く神様の国をおさめる王様だということ、人を
罪の苦しみから解放する救い主であることを、
お弟子さんたちは知ることになるのです。

もちろんわたしたちも！

祈り

天のお父様、イエス様こそ、わたしたち
の王です。

2月2日(水)

聖書
聖句

ルカ9・23

だれでもわたしについて来たいと思ふなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負って、わたしに従ってきなさい。 23節

わたしたちは、自分のため、自分を守るためにならなんでもしてしまうものです。

でも、イエス様が十字架にかかるときは？自分がかわいいから、痛そうだからいやだ、ではなく、ただ神様のみ心が行われますようにと従われたんだね。イエス様はすごいね。

あなたも、考えてみてください、自分のためにではなく、神様のためにできることを。たとえ小さくても、喜んで従うなら、神様に喜ばれ、受け入れられるはたらきをできるよ。

祈り 天のお父様、わたしも、小さなはたらきを喜んであなたのためにささげます。

2月3日(木)

聖書
聖句

ルカ9・24~25

自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを救うのです。 24節

人は「これがわたしの生きる道！」「わたしはこうしたいの！」と、自分が今、良いと思う人生を生きているね。

だけど、本当は自分がどこに向かって歩いているのか分からないでいるのです。たとえ人生では成功してしあわせに見えても、死んだあとの世界に持っていくことはできないよ。

本当に見つけなければいけない道は、永遠に向かつて続いていく道だよ。そして、それはあなたを造ってくださった神様と、イエス様の救いがあることを知る道です。

祈り 天のお父様、これからもイエス様の救いの道を歩ませてください。

2月4日(金)

聖書
聖句

ルカ9・26

だれでも、わたしとわたしのことをばを恥じるなら…その人を恥じます。 26節

あなたのまわりの人は、イエス様のことをなんて言うかな？十字架で殺された、かわいそうな人？外国の宗教の人？自分にはかんげいない？そして、「キリスト教なんて信じてんの？」ってばかにする人も…。

人は弱くて、すぐにまわりの意見に負けてしまうけれど、負けてはいけないうちもあるよ。

イエス様がバカにされ、だれも受け入れないとき、それでもあなたは恥じてはいけません。

だって、あなたはイエス様がどんなすばらしいお方か、やがてイエス様にお会いすることだって知っているから！

祈り 天のお父様、イエス様を恥じず、ほこれるわたしでいさせてください。

2月5日(土)

聖書
聖句

ルカ9・27

ここに立っている人たちの中には、神の国を見るまで、決して死を味わわない人たちがいます。 27節

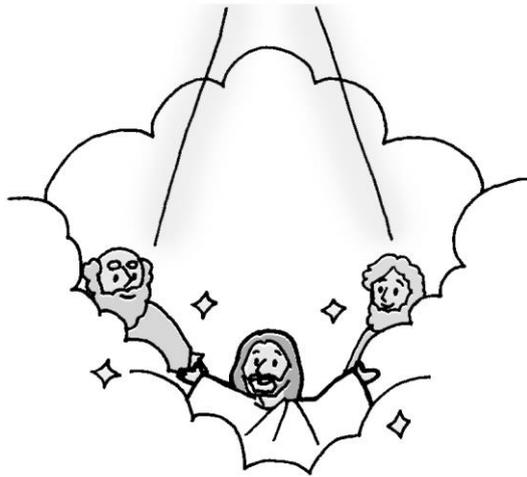
さいきん、人が死ぬと、みんなそろって「天国にいきました」って言うよね。え〜？

そう、人は死んでも生きたいし、生きていてほしいって思ってるってことだね！

ただ、天国はイエス様をこの世界につかわされた神様のものだね。だからもし、永遠の命を持っていなかったら、天の国を見ようと思っても見られないよね。

永遠の死を味わわないまま、天の国をたっぷりと味わうことができるわたしたちでいたいね！そして、知らない人に教えてあげたいね！

祈り 天のお父様、一人でも多くの人と天の国を味わえますように。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 9・28～36
変貌のキリスト
これはわたしの選んだ子。彼の言うことを聞け。 ルカ 9・35

目標

栄光の主が十字架に向かって歩まれたことを覚え、従う。

2月6日(日)

聖書
聖句

ルカ 9・35
これはわたしの選んだ子。彼の言うことを聞け。 35節

世界にはいろんな教えや考えがあふれているね。どれも正しそうに聞こえてくるけれど、ちょっとまって！

それは神様を喜ばせるもの？ それともあなただけが喜ぶようなもの？

わからなくなったときは、「イエス様に聞くこと」がいちばん！ イエス様に聞くというのは、イエス様に従うってこと。「イエス様ならどうするだろう？」って立ち止まって考え、行いを正しくえらぶこと。

十字架にまで従われたイエス様なら、どんなことも正しくみちびいてくださるね。

いの祈り

天のお父様、イエス様によって、わたしを正しくみちびいてください。

2月7日(月)

聖書
聖句

ルカ 9・28
イエスはペテロとヨハネとヤコブを連れて、祈るために山に登られた。 28節

あなたは、なにか特別なことがあるとき、神様にお祈りしていますか？

イエス様も重大なできごとの前に、このペテロとヨハネとヤコブの三人をつれて山へ行き、お祈りされることがありました。

この三人が見ていたから、聖書に大切なできごとが記され、わたしたちもまた、聖書のお話から知ることができるよね。

そして、聖書に記されたイエス様の姿が本物だと、世界中の人が知るまでになったのだから、イエス様の選びってすごい！

いの祈り

天のお父様、大切なことを見た人によって、イエス様の姿を知ることができ感謝します。

2月8日(火)

聖書
聖句

ルカ 9・29
祈っておられると、その御顔の様子が変わり、その衣は白く光り輝いた。 29節

わたしたちは、祈れば祈るほど、真っ白に輝かずに、ドロドロによごれた真っ黒な姿だって気づきませんか？ これが本当の姿とは…。

でも、イエス様はちがうのです。イエス様は祈るほどに白く輝きだすきよいお方だったね。そう考えると、「ああイエス様って本当に神様のひとり子、罪けがれのなきよいお方なんだな～」って思うよ。

そして、こんな真っ黒なわたしのために、ご自分をささげてくださったイエス様に感謝の気持ちでいっぱいになるよね。

いの祈り

天のお父様、きよいイエス様をわたしのために与えてくださり感謝します。

2月9日（水）



ルカ 9・30~31

そして、見よ、二人の人がイエスと語り合っていた。 30節

ふたりの人とは旧約聖書に登場する、イスラエル人ならだれもが尊敬するモーセとエリヤでした。ってことは、旧約聖書の預言とイエス様がつながってるし、イエス様が神様からつかわされているしょうこだってことだね！

でも、その話の中はというと、イエス様の最期のことについて。モーセがイスラエル人をエジプトから引き出したように、イエス様も、わたしたちを罪から引き出すために、ご自分がどんなにか苦しい道を歩まねばならないかを話し合っていたのです。

いの祈り 天のお父様、信じ尊敬されてあたりまえのお方が、わたしたちのために苦しみの道を歩まれたことを感謝します。

2月10日（木）



ルカ 9・32

イエスの栄光と、イエスと一緒に立っている二人の人が見えた。 32節

なにかすごいものを自分だけが見たとか、手に入れた、そんなことってありますか？

そんなときには、自分がすばらしく、特別な人間だからって思ってしまうことも…。

でも、本当にすばらしく、特別なのは、自分ではなく、その「すごいもの」のほうだね！

それは、イエス様。イエス様が見せてくださるもの、教えてくださることのすばらしさや、なんのためにあなたを選んでくださったのかに、心の目を集中することが大切なのです。

さあ、あなたはなにを学びますか？

いの祈り 天のお父様、イエス様のすばらしさに気づき、その姿や教えから、なくてはならないものを学んでいけますように。

2月11日（金）



ルカ 9・33~34

ペテロは自分の言っていることがわかっていなかった。 33節

だれでも、たのしい時間はいつまでも続いてほしいし、すばらしい人のことは記念したり、おがんでしまったりするね。

ペテロも、イエス様と、モーセとエリヤが、いつまでもここにいてほしいし、みんなに見てほしいと思ったのかもしれないね。

でもそれは、十字架なしのイエス様をおがむことでもあるかもしれません。

イエス様の十字架があって、今のわたしたちがあること、本当のイエス様のすばらしさがどこにあるかがわかるわたしたちでいたいね。

いの祈り 天のお父様、イエス様の本当のすばらしさをわかることができ、ありがとうございます。

2月12日（土）



ルカ 9・35~36

弟子たちは沈黙を守り、当時は自分たちの見たことをいっさい、だれにも話さなかった。 36節

「沈黙」できるって、大切なこと。今、世界を見てみると「わたしが正しい」「わたしこそメシヤだ」「わたしを信じなさい」…そんな「わたし・わたし」っていう声があふれかえっているよね。

でも、本当に大切なこと、真実、正しいことは「ある時」が来て、ようやくはっきりするものです。それは、「神様の時」！

「わたし」ではなく、神様がわからせてくださる「時」に心をむけてすごしたいね。

いの祈り 天のお父様、あなただけが真実を明らかにすることができるお方です。すべてをおまかせして歩みます。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 11・1~13
熱心に求める
求めなさい。そうすれば与えられます。 ルカ 11・9

目標

切なる求めをもって祈る。

2月13日(日)

聖書
聖句

ルカ 11・1~13

求めなさい。そうすれば与えられます。 9節

「お祈り、うーん、ちょっと苦手」「あててほしくない」なんて思っていますか？ 神様を知らない、信じない人たちは、「え？ お祈りって、あの、ひとりでぶつぶつ言う、あれ？」なんて言うかもしれません。ニセの神様、つまり偶像へのお祈りはその通りです。しかし！ 唯一、まことの、真実で、絶対なる神様へのお祈りは、全然、断然ちがうのです！ 生きておられて、ちゃんと聞いてくださって、求めれば必ず与えてくださる。祈らないと損ですよ。

いの祈り

天のお父様、今週はお祈りについて教えていただくと共に、本気で、切に求めて祈っていける子どもにしてください。

2月14日(月)

聖書
聖句

ルカ 11・1

主よ。ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください。 1節

あなたのまわりに、熱心に、いつもお祈りする人を見ているでしょうか？ お父さん？ お母さん？ おじいちゃん？ おばあちゃん？ 教会の牧師先生？ 教会学校の先生たち？ そういう人たちがすぐそばにいてくださるのは幸せです。イエス様のお弟子さんたちは、目の前にいつもお祈りをしておられるイエス様を見ていたのです。ついにある時、あまりにイエス様が楽しそうに心満たされてお祈りしているのを見て、「祈りを教えてください」と頼みました。

いの祈り

天のお父様、イエス様のお弟子さんたちと同じように、わたしにも、祈ることを教えてください。お願いします。

2月15日(火)

聖書
聖句

ルカ 11・2~4

「祈るときには、こう言いなさい。『父よ、御名が聖なるものとされますように。御国が来ますように』。 2節

そこでイエス様が弟子たちに、こう祈りなさいと教えてくださったのが、いつも皆さんが教会学校でお祈りしている「主の祈り」なのです。もう全部覚えてお祈りできる人もいますでしょう。まだの人は、ぜひとも見ないでお祈りできるようになりますように。毎週教会学校へ来ると、いつの間にか覚えられますよ！ ただし、スラスラ言えるのがいいではありません。ゆっくりお祈りの中身を味わいつつ、お祈りするのは、スゴイ中身ですよ！

いの祈り

天のお父様、どうお祈りしていいかわからない時や心が不安な時とかに「主の祈り」をお祈りしていきます。

2月16日（水）

聖書
聖句

ルカ 11・5～7

友人が旅の途中、私のところに来た
のだが、出してやるものがないのだ。
6節

「主の祈り」を教えてくださいと、イエス様は、「お祈りはね、こういうふうにするといいいのですよ」という、たとえ話をしてくださいました。ひとりの人が、友人のところへ真夜中にでかけて行って、「パンを三つ貸してください。友人が来たが、あいにく今、うちには何も出してあげられないので」と言うといいます。お祈りはちょうどそのように、ないので与えてくださいとお願ひすることです。しかし、真夜中だし、その友人は当然おことわりするにきまっています。

祈り 天のお父様、お祈りがいつでもすんなりとこたえられるのではないことが、このたとえでわかってきました。

2月17日（木）

聖書
聖句

ルカ 11・8

この人は、友だちだからというだけでは、起きて何かをあげることはしないでしよう。しかし、友だちのしつこさのゆえなら起き上がり、必要なものを何でもあげるでしよう。
8節

「もう戸は閉めてしまったし、子どもたちもわたしも床の中だ。今起きて何もあげられませんよ」と断られたとしてもです。「いや、どうしてもパンを三つ貸してほしいのです。旅先からうちへ着いた友だちのために、ぜひとも、お願いします。ドン、ドン、お願いしますよ、ドン、ドン、ドン」で、しつこく、うるさく、貸してもらえるまで求めると、きつと「うるさいなア、わかったよ」とパンを出してくれるにちがいないですよ、とのイエス様の教えです。

祈り 天のお父様、お祈りとは、すぐにあきらめたり、やめたりしないで、しきりに求めるべきだと知り、励みます。

2月18日（金）

聖書
聖句

ルカ 11・9～10

だれでも、求める者は手に入れ、探す者は見出し、たたく者には開かれます。
10節

「求めなさい」「探しなさい」「たたきなさい」と、お祈りが、だんだんとはげしくなっていることをあらわしていますよ。わたしたちのお祈りは、どのくらいのところでしょうね？ 求めてみて、「ア、きかれないや」でとまったことが多いのかな？ それでは、「ここまで教えられた以上、探してみよう！ たたいてみよう！ それもはげしくやってみよう！」と思いますよね。きょうの約束のみ言葉には、「だれでも」、そう「みんな」なのですから！

祈り 天のお父様、あなたのすばらしいお約束を信じて、求め、探し、たたき、与えられるまでお祈りします！

2月19日（土）

聖書
聖句

ルカ 11・11～13

天の父はご自分に求める者たちに聖霊を与えてくださいます。 13節

あなたがお父さんに、「お父さん、ぼく、お魚食べたいよ」と言ったら、お父さんが「そらっ」と、へびをくれるなんてことがあり得る？ あなたがお父さんに、「お父さん、わたし、卵が食べたいの」と言うと、お父さんが「ほらっ」と、さそりをくれたりしたら卒倒してしまいますよね。考えられないことです。ましてや、私たちのために一番必要な助け主である聖霊を天の父なる神様は、わたしたちが求めるならば、喜んで与えてくださいます。

祈り 天のお父様、わたしたちのお祈りを助けてくださる聖霊なるお方を与えてくださって、ますます祈らせてください。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 16・19～31
金持ちとラザロ
彼らにはモーセと預言者がいる。
その言うことを聞くがよい。

目標

ルカ 16・29
死後のさばきの存在を知り、み言葉によって備える者となる。

2月20日（日）

聖書
聖句

ルカ 16・19～31
彼らにはモーセと預言者がいる。その言うことを聞くがよい。 29節

「人間、死んだらおしまい。消えてなくなるだけさ」と考える人もいるみたいです。あなたは どう思う？ 聖書は神様のことで、ズーっとそのとおりのことが起っているのです。聖書の言うことに絶対まちがいはないのです。死んでおしまいではなく、天国か、地獄か、そのどちらかで、永遠を過ごすことになるのです。なんておごそかでしょう。行ってからでは遅いのです！ この金持のように、人に伝えることもできません。

いの祈り 天のお父様、人はだれでも死を迎えます。死んだあとどうなるのか、しっかりみことばによって備えさせてください。

2月21日（月）

聖書
聖句

ルカ 16・19～21
ある金持ちがいた。紫の衣や柔らかい亜麻布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。 19節

「いいなあ、お金持は！ かつこい高価な服を着て、毎日、好き放題に、食べたり飲んだり、ぜいたくに遊び回れるなんて！」と思いますか？ かと思えば、神様、不公平じゃないですかと言いたくなるかわいそうなラザロの姿。貧乏で全身でき物でおおわれて、そのでき物を犬になめられるなんて！ ラザロとは「神はわが助け」という意味の名前で、そんなあわれな姿でしたが神様を信じていた人だったので。

いの祈り 天のお父様、人の一生は地上だけではないと思うと、この二人についていろいろ考えさせられてしまいます。

2月22日（火）

聖書
聖句

ルカ 16・22～23
しばらくして、この貧しい人は死に、御使いたちによってアブラハムの懐に連れて行かれた。 22節

やっぱり！ ということですね。名前のお通り、神様を信じていた貧しい人ラザロがついに死にました。お葬式さえ、だれにもしてもらえなかったようです。でも御使いたちに連れられて、天にいたる信仰の父アブラハムのふところに送られていきました。金持も死に、きっと盛大なお葬式をしてもらったのですが、なんと苦しい黄泉にいますではありませんか！ そこからあのラザロがアブラハムといるのを見たのでした。

いの祈り 天のお父様、死んでのち、どこへ送られるのかは重大です。あなたを信じてまちががなく天国に行きたいです。

2月23日(水)

聖書
聖句

ルカ 16・24～26

父アブラハムよ、私をあわれんでラザロをお送りください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすようにしてください。 24節

冬になればたき火をします。身体が暖まってくれたいのですが、そのたき火の炎の中に入ると大変です。ギャーッ！ っととび出しましょう。ここの金持はそんな炎の中でずっと苦しみ続けるのですから、まさに地獄、黄泉の苦しみです。ラザロをつかわしてくださいとお願ひしても、あなたとわたしたちの間には大きな淵があって、どちらからもそこを越えて行くことはできませんよとの答です。恐ろしいばかりです。

いの祈り 天のお父様、一度この地獄の炎の中に入られると、もう決して二度とそこからは出られないと知りました。

2月24日(木)

聖書
聖句

ルカ 16・27～29

父よ。それではお願ひですから、ラザロを私の家族に送ってください。 27節

「では、せめて、まだ地上にいるわたしの五人の兄弟のところにラザロをつかわしてください。こんな苦しい所へ来ることがないように、伝えさせてください」と、金持はアブラハムにお願ひします。アブラハムは答えます、「彼らにはモーセと預言者とがある。それに聞くがよからう」と。わざわざラザロが行かなくても、モーセや預言者はちゃんと神のことは語っているし、神を信じるように勧めているのだからと。

いの祈り 天のお父様、今、わたしたちにも大切な聖書を通して、あなたが人生で一番重要なことを教えてくださり感謝です。

2月25日(金)

聖書
聖句

ルカ 16・30～31

だれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。 31節

「いえいえ、アブラハムさん、さすがに、死人の中からだれかが兄弟たちの所に行ってくれるならば、きっと、彼らは悔い改めるにちがひありません」と、金持は言います。アブラハムは、「その考えは甘いよ」と言わんばかりです。「もし彼らがモーセにも預言者にも耳を傾けないなら、たとい死人の中からよみがえってくる者が言っても、彼らは聞き入れはしないよ」と。みことばにしっかり聞きたいね！

いの祈り 天のお父様、あなたの聖書のみことばをよくよく聞いて、死んだのちのために、よい備えができるよう助けてください。

2月26日(土)

聖書
聖句

ヘブル 9・23～28

人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている 27節

ここにハッキリと記されています。だれも死んでおしまいではないのです。お墓に入っておしまひでもありません。どんな人でも、金持でも貧しい人でも必ず一度は死に、そして、死んだ後、さばきを受けることがちゃんと、神様によって定められています。その時、わたしの罪の代わりに十字架で一度だけ死んで、よみがえってくださった救い主イエス様を信じるなら、永遠の天の御国に入れてもらえます。信じましょう。

いの祈り 天のお父様、あなたが準備して下さる天国に送っていただくために、しっかりとみことばに聞き従います。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 17・11～19
癒された十人の病人
そのうちの一人は、自分が癒やされたことが分ると、…イエスの足もとにひれ伏して感謝した。

目標

ルカ 17・15～16
主から受けた恵みに感謝し、神をほめたたえる。

2月27日(日)

聖書
聖句

ルカ 17・11～19
そのうちの一人は、自分が癒やされたことが分ると、…イエスの足もとにひれ伏して感謝した。 15～16節

「ありがとう!」「感謝します!」「サンキューベリーマッチ!」ってあなたはよく言いますか? 声に出して言うとなますます感謝があふれます。だれかに言えば、聞くその人もうれしくなるでしょう。この感謝のことばを、わたしたちは、もっともっと、神様に言いたいですね。ここでは十人のうちのたった一人だけイエス様のところで感謝したのです。今週は毎日、イエス様によくしていただいたことを感謝しましょう。

いの祈り 天のお父様、恵みをたくさんくださって感謝します。他にもあなたからいただいている一つ一つを感謝いたします。

2月28日(月)

聖書
聖句

ルカ 17・11～13
声を張り上げて、「イエス様、先生、私たちをあわれんでください」と言った。 13節

イエス様がエルサレムへ行かれる途中、ある村のできごとです。なかなかおもしろくないツアラアトの人々が十人いました。彼らはうわさに聞いていたイエス様がその村に入ってこられるのを見て、遠くの方で立ちどまって、大声を張りあげてイエス様の助けを求めました。恥ずかしいなんて言ってもらえません。イエス様だったらきっといやしきよめてくださると信じて、とにかく最大ボリュームで叫びました。

いの祈り 天のお父様、この十人の病気の人たちの叫びは、イエス様に届きました。私も信仰をもって必死に求め続けます。

3月1日(火)

聖書
聖句

ルカ 17・14
すると彼らは行く途中できよめられた。 14節

イエス様から言われたことには、「ハーイ!」と言って、すぐに素直にその通りにすると、いつも素晴らしいことがおこるのです。この十人の人たちは、「祭司たちのところに行って、からだを見せなさい」とイエス様に言われて、「ハーイ!」と、きつと走って行ったのでしよう。すると、なんと! 行く途中でみんなが、「アレレ、スゴイゾ! なおってるよー!」と気づいたのです。イエス様の偉大なみわざ!

いの祈り 天のお父様、イエス様のおことばにすなおに従う時、なおりそうもない病気をいやされるとはとてもスゴイです。

3月2日（水）

聖書
聖句

ルカ 17・15～16

イエスの足もとにひれ伏して感謝した。彼はサマリア人であった。

16節

おや？ 九人の方々、何か忘れてはいませんか？ と言いたいところです。十人の中のたったひとり、しかもユダヤ人でなく、ユダヤ人から嫌われていたサマリア人だけが、イエス様のみもとに帰ってきて、足もとにひれ伏して感謝したのです。大声で、「ハレルヤー！ 神様、あなたのいやしを感謝します！ あなたを心よりほめたたえます」と叫びながらね。わたしたちも、もしかしたらよく忘れてしまっているかもね。

いの祈り 天のお父様、あなたから祝福されたり、祈りにこたえられた時、あなたに感謝することを忘れないようにお守りください。

3月3日（木）

聖書
聖句

ルカ 17・17～18

十人きよめられたのではなかったか。九人はどこにいるのか。 17節

イエス様も、不思議に思われたのです。しかし、十人いたはず、しかもみんなきよめられたはず、ほかの九人は、一体どこに行ってしまったのか？ うれしい、うれしいで、きよめてくださったイエス様のことはすっかり忘れ、感謝をおささげしに、イエス様のみもとに帰ってくることも全く頭になかったようです。やってきたのはたった一人の他国人！ わたしたちもこの九人のような失敗をしませんように。いつも主に感謝！

いの祈り 天のお父様、あなたからよいものをたくさんいただきっぱなしで知らん顔でなく、いつも一つ一つ感謝できますように！

3月4日（金）

聖書
聖句

ルカ 17・19

立ち上がって行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです。 19節

イエス様は、この一人のサマリア人に、心をこめて言われました。「立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ」とね！ え？ イエス様が、十人を全くきよめてくださったのでしょうか？ そのとおりです。でも十人の人たちはイエス様を信じて、言われるとおりにしました。その信仰をイエス様はとても喜ばれました。そして感謝をささげる信仰をさらに喜ばれました。このみことばをいただいたのは、この人一人でした。

いの祈り 天のお父様、あなたの喜ばれる信仰がよくわかりました。きちんと感謝をおささげする信仰を持ちたいです。

3月5日（土）

聖書
聖句

詩篇 100・1～5

感謝しつつ 主の門に 賛美しつつ
その大庭に入れ。主に感謝し 御名を
ほめたたえよ。 4節

2月を神様に感謝して 3月に入ったこの一週間も守られてきました。この詩篇は感謝の礼拝の詩篇です。わたしたちは神様に造られました。わたしたちは神様のものです。神様は偉大な羊飼いの方です。わたしたちは神様の大きな牧場の中で、守られ、育てられ、養われている羊のような者たちです。たくさんの恵みを神様はわたしたちに与えてくださって、身も心も魂も満ち足らせてくださいます。ですからハレルヤ！

いの祈り 天のお父様、いつまでも続く、あなたの恵みといつくしみとまこととのゆえに、心いっぱいあなたをほめたたえます。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 19・28～40
主がお入り用なのです
主がお入り用なのです。

ルカ 19・34

目標

キリストが必要としてくださることを覚え、喜んで自分を主にささげる。

3月6日(日)

聖書
聖句

ルカ 19・34

主がお入り用なのです。

34節

「お入り用」という言葉の意味、知っていますか？ わかりやすく言うと「必要」という意味。「主がお入り用なのです」というのは、「イエス様にとって、それが必要なのです」ということです。イエス様にも、わたしにはこれが必要！というものがあつたのですね。

わたしたちには、ないと困る、必要なものがたくさんありますよね。勉強するためには、えんぴつが必要。ご飯を食べる時には、おはしが必要、などなど。イエス様にも大切なご用事があつて、必要とされたものがあつたのです。今週は、イエス様が必要とされているものについて、学んでいきましょう。

いの祈り 天のお父様、イエス様が必要とされているものがよくわかるように導いてください。

3月7日(月)

聖書
聖句

ルカ 19・28～30

まだだれも乗ったことのない子ろばが、つながれているのに気がつくでしょう。それをほどいて、連れて来なさい。

30節

エルサレムに向かわれたイエス様。オリブ山の近くまで来た時、二人の弟子に、村に子ろばがつかないから、つれて来て、と頼まれたんです。イエス様は、この子ろばに乗ってエルサレムに入ることを決めておられたのです。

この子ろばの初デビューは、イエス様をお乗せすること。子ろばにとって、イエス様のお役に立つことが一番の使命で、そのために選ばれていたからです。あなたもそう。イエス様のお役に立つために、選ばれているのです。

いの祈り 天のお父様、イエス様のお役に立つために、わたしを選んでくださり、ありがとうございます！

3月8日(火)

聖書
聖句

ルカ 19・30～32

使いに出された二人が行って見ると、イエスが言われたとおりであつた。

32節

イエス様につかわされた二人の弟子。イエス様が言われたとおりに行ってみると、いました、子ろばが！二人は、子ろばをイエス様のもとにつれてくるご用を、無事に完了しました！

イエス様は、大切なご用を弟子たちに任せられたんですね。でも、難しいことは任せていませんよ。イエス様の言うとおりにしたら、ちゃんとできたのです。イエス様は、わたしたちができないことを頼んだりされません。必ずできるように準備をされてから、わたしたちに任せられるのです。

いの祈り 天のお父様、イエス様の言うとおりに従います。イエス様がわたしに頼まれることは必ずできると信じます。

3月9日（水）

聖書
聖句

ルカ 19・33～34

弟子たちは、「主がお入り用なので
す」と言った。 34節

ところで、つながれた子ろばには、持ち主たちがいました。当然、弟子たちに「なぜ、子ろばをつれていこうとするの？」と言ってきたわけです。弟子たちは、イエス様に教えられたとおり「主がお入り用なのです」と答えました。イエス様が子ろばを必要とされている！それを聞いた持ち主たちは、子ろばをつれていくことをゆるしてくれたのでした。持ち主たちも、イエス様のお役にたちましたね。

わたしたちも、イエス様が必要とされていることがわかったら、「どうぞ、お使いください」って、おささげしていききたいですね。

いの祈り 天のお父様、イエス様が必要とされるものは、わたしも喜んでおささげしていきま
す！

3月10日（木）

聖書
聖句

ルカ 19・35～36

その上に自分たちの上着を掛けて、
イエスをお乗せした。 35節

弟子たちは、自分たちの上着を子ろばにかけて、イエス様をその上にお乗せしました。ほかの人々もやってきて、イエス様の進む道に自分たちの上着を次々しいていきます。人々は王様を迎える時のように、イエス様を迎えました！

弱々しい、力のない子ろばに乗るイエス様。りっぱな馬じゃなくて変ですか？いいえ、イエス様は柔和と平和の王様ですもの、戦うことができない弱い子ろばを選ばれたのです。同じようにイエス様は、弱くて欠点だらけのわたしたちを、選んでくださるんですよ。子ろばの上でゆられるイエス様、すてきです！

いの祈り 天のお父様、わたしが弱くて欠点があっても、選んでくださることを感謝します！

3月11日（金）

聖書
聖句

ルカ 19・37～40

祝福あれ、主の御名によって来られる方、
主に。 38節

子ろばに乗ってエルサレムに入られるイエス様を、大勢の人々がよろこんでお迎えしました。「祝福あれ、主の御名によって来られる方、主に！」と賛美の声が鳴りひびきます。ところが、それがおもしろくないパリサイ人が、イエス様に「あなたの弟子たちをしかってください！」と、もんくを言ったのです。イエス様はハッキリ言われました、「この人たちが黙れば、石が叫んで賛美しますよ」、と。

イエス様は全世界のすべてのものから賛美される救い主です。その賛美を止めてはいけないし、誰にも止められないのです。

いの祈り 天のお父様、イエス様を心から賛美します。世界中の人々がイエス様を賛美するように。

3月12日（土）

聖書
聖句

ルカ 19・28～40

主がお入り用なのです。 34節

教会の先生に「これお願いできる？」とか、「これをやってみてほしんだけど…」と、何か頼まれたことがありますか？それはきっと、イエス様が「あなたが必要なだよ」と言っておられるのだと思います。そのほかにも、家で、学校で、いろんなところでイエス様はあなたを必要としておられるんですよ。弟子たちも、子ろばも、持ち主たちも、イエス様は必要とされて用いられました。

あなたもそう。「はい、わかりました」と、喜んであなた自身をイエス様におささげしてください。イエス様は、あなたを通してなにかなすばらしいことをしてくださるはずですよ！

いの祈り 天のお父様、わたし自身をイエス様におささげします。わたしを通して、イエス様のすばらしさが現わされますように！



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 21・1~4
レプタ 2枚をささげたやもめ
この貧しいやもめは、だれよりも
多くを投げ入れました。

目標

ルカ 21・3
すべてをご存じの神に信頼し、
真心からの献げ物をする。

3月13日（日）

聖書
聖句

ルカ 21・1~4
この貧しいやもめは、だれよりも多
くを投げ入れました。 3節

♪いまささぐるそなえものを、主よきよめて、
お受けください。アーメン♪ わたしたちは
毎週日曜日、教会学校で献金の歌を歌いなが
らおささげします。「イエスは目を上げて……見
ておられた」とあります！ イエス様はわたした
ちの献金を見ておられるのです！ ここで、一番
たくさん献金を入れたのは、あの貧しいやもめ
（夫が亡くなった婦人）だとイエス様は言われ
ます。えっ!? 最低のレプタ銅貨 2枚をささげた
人ですか!?

いの祈り 天のお父様、本当にあなたに喜ばれる
献金はどのように、どれくらいしたらいい
のか、今週しっかり学びたいです。

3月14日（月）

聖書
聖句

ルカ 21・1~4
あの人はみな、あり余る中から
献金として投げ入れたのに 4節

金持たちがやってきて、さいせん箱に献金を
投げ入れます。ジャラジャラ、ザザーッって。
まわりの人たちは、目をまんまるくして、「ス
ゴイ!」と思いながら、つばを飲んで驚いて
いたかもしれません。投げ入れる金持たちも鼻
を高くして、「どうだ!」っていう思いで入れ
たかもしれません。ところがです。イエス様か
ら見れば、やもめの献金より少ないというわけ
です。それはありあまる中からささげたからで
す。

いの祈り 天のお父様、イエス様の見方と、わたした
ちの見方とは、あまりにもちがっているこ
とがよくわかりました。

3月15日（火）

聖書
聖句

ルカ 21・1~4
この人は乏しい中から、持っていた
生きる手立てのすべてを投げ入れた
のですから。 4節

レプタ銅貨 2枚のささげもの、これは献金と
してゆるされていた「最低の金額」だったので
す。それにもかかわらず、そのレプタ 2枚をさ
さげた貧しいやもめが、だれよりもたくさん入
れたのだと、イエス様が言われました。という
のは、その献金はやもめの生活費全部だったか
らです。つまり、この婦人は『全部』を、神様
におささげしたというわけです。ですから、だれ
よりもたくさんささげ、神様に喜ばれたのでし
た。

いの祈り 天のお父様、貧しいやもめの婦人はき
つと、心からあなたに感謝し、喜んでお
ささげしたのです。わたしもならいた
いです。

3月16日(水)

聖書
聖句

マラキ3・6~9

だが、あなたがたはわたしのものを盗んでいる。 8節

ドロボーがおうちに入った！ そんな恐ろしいことがありましたか？ その時見つけたら、「ドロボー!!」って叫んで追っかけるでしょう。110番に電話するでしょう。何と、神様はマラキという預言者を通して、「あなたがたはドロボーだ！」って、ユダの民に言われます。「わたしのものを盗んでいる」ってね。「え？ なぜですか？」と民が言い返すと、「十分の一とささげ物をもって」と神様は言われます。わたしたちは？

いの祈り

天のお父様、あなたの物を盗むなんてことはしたくないです。どうしたらあなたに喜ばれる献金ができるか教えてください。

3月17日(木)

聖書
聖句

マラキ3・10

十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、わたしの家の食物とせよ。 10節

100円玉が10個あったら、わたしのものは9個、つまり900円、神様のものは1個、つまり100円です。これが「十分の一」の献金ですね。へー、神様のものは、たったの一個でいいの？ と思ってしまうませんか?! マラキが預言していたころ、「十分の一」を分けても、それを全部、神様の倉に持ってきて、おささげしようとはしなかったのです。わたしたちはみことばにしたがって、おこづかいの十分の一をおささげしましょう。

いの祈り

天のお父様、お金はよい事にも悪い事にも使われます。十分の一を神様の尊いご用のためささげさせてください。

3月18日(金)

聖書
聖句

マラキ3・10

こうしてわたしを試してみよ。／一万軍の【主】は言われる／わたしがあなたがたのために天の窓を開き、／あふれるばかりの祝福を／あなたがたに注ぐかどうか。 10節

十分の一でいいのです！ 本当に十分の一をおささげして、神様をためしてごらんささい！ と言われます。そうすると、神様は天の窓を大きく開いて、あふれる恵みを注いでくださるとの、お約束です。お米や麦を缶の中に入れてゆすってみると…すきまがつんで、「あれ？ まだ入るよ」ということになります。そのように、神様はあふれる恵みをゆすり入れてくださるとの、驚くべきお約束なのです！

いの祈り

天のお父様、みことばに従って、やってみるのがとても楽しみです。これからちゃんと十分の一献金をします。

3月19日(土)

聖書
聖句

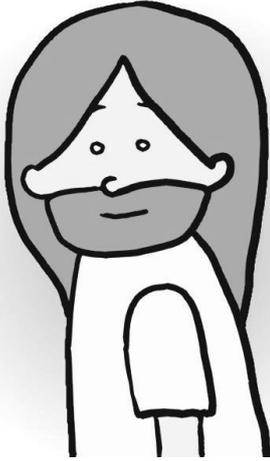
ローマ12・1~2

あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。 1節

「神様に最高に喜んでいただけるささげもの」は？ あのやもめさんは、心より神様に感謝し、喜びをもって、そして、神様はきっと必要を満たしてくださるとの信仰をもって、生活費全部をささげました。それは自分自身を、自分の命をおささげすることでした！ 実は、わたしたちのからだも命もすべて、神様からいただいているものです。神様に、ぜ～んぶおささげして当たり前。神様は喜んで受け入れ、用いてくださいます。

いの祈り

天のお父様、小さな貧しいわたしですが、ぜ～んぶあなたにおささげします。あなたの清い御用に用いてください。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 22・31～34、54～62
キリストのまなざし
主は振り向いてペテロを見つめられた。 ルカ 22・61

目標

ゆるしと回復を与えてくださる主のまなざしの中で生きる。

3月20日(日)

聖書
聖句

ルカ 22・31～34、54～62
主は振り向いてペテロを見つめられた。 61節

わたしのことって、もちろん、わたしが一番よく知っているわよ、と言いますか？ ところがそうではないということがこのペテロとイエス様のお話でよくわかります。「こんなはずじゃなかった…」と、ペテロ自身が一番ビックリしていたのです。その時、そばを通り過ぎて行かれるイエス様が自分を見つめられるまなざしを見ました。ペテロだけが見たまなざし!! ゆるしのまなざしでした。

いの祈り

天のお父様、ペテロを一番よく知って祈ってくださったイエス様がわたしのことも知っていてくださり感謝します。

3月21日(月)

聖書
聖句

ルカ 22・31～34
わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。 32節

「ふるい」ってわかりますか？ 竹で編んだもので、ゆさゆさゆすったり、空中にあげたりして穀物の殻を飛ばして、中に実だけが残るようにする道具です。ちょうどサタンも、そのように人をふるいにかけて落とそうとします。イエス様は、「シモン・ペテロよ、あなたもそうされて、失敗してしまうよ、でもあなたの信仰だけはなくならないようにお祈りしたから、立ち直ったら兄弟たちを力づけてあげるんだよ」と言われます。

いの祈り

天のお父様、人はだれでも弱くて、失敗します。でもそんなわたしのために、お祈りして下さるイエス様に感謝です。

3月22日(火)

聖書
聖句

ルカ 22・31～34
主よ。あなたとご一緒なら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。 33節

「とんでもない！ イエス様。サタンのふるいなど何でしょう？ わたしはあなたとなら牢にでもご一緒しますよ。たとえ死ぬようなことになっても、どこまでもあなたとご一緒に行く覚悟は十分にできていますよ」と、ペテロはきくと、キッパリと言ったにちがいません。もちろん、ペテロは本気でそう言ったのです！ そうするつもりだったのです。本当に。でも自分の本当の姿って、わかっていないのですね。

いの祈り

天のお父様、「本当のわたし」をあなたは知らせて下さることがよくわかりました。大切だと思えます。

3月23日（水）



ルカ 22・31～34

今日、鶏が鳴くまでに、あなたは
三度わたしを知らないと言います。
34節

イエス様は、本当に不思議なお方です。これからペテロの身に起ころうとすることをとても細かくハッキリと言われました。マルコ 14・30には、「まことに、あなたに言います。まさに今夜、鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います。」と、なんと鶏が鳴く回数まで言うておられるではありませんか！まさに、「全知」、すべてをご存知の神様のひとり子なるお方ですね！

いの祈り 天のお父様、イエス様の目には、わたしのすべてが丸わかりなのだと思って、あなたにおまかせして歩みます。

3月24日（木）



ルカ 22・54～55

ペテロは遠く離れてついて行った。
54節

ついにオリーブ山のゲツセマネの園で、イエス様は捕えられてしまいました。ひっぱられて、大祭司の邸宅へつれて行かれます。ペテロの心の中が読めるみたいです。イエス様のことがとっても気になる、でも、あまり近づいて行くのも恐ろしい…だから、遠くからついて行ったのでした。中庭のまん中にはたき火があつて、人々は一緒にそこにすわっていたので、ペテロも何食わぬ顔をしてそっとすわりました。

いの祈り 天のお父様、「牢であろうと死であろうとあなたとご一緒なら」と言ったペテロの気持ちに変化してきているのがわかります。

3月25日（金）



ルカ 22・56～60

ペテロはそれを否定して、「いや、私
はその人を知らない」と言った。
57節

「この人もイエスと一緒にいました」。突然、ある女の声（おんなこゑ）がひびきました。ひとりの召使（めしつかい）の女（おんな）が火のそばにすわっているペテロを見て、叫（よび）んだのです。すると、ペテロはそれを打ち消（うけ）して、「わたしはその人を知らない」と言（い）ってしまったのです！ ペテロも自分の口から出（で）たことばに耳（みみ）を疑（うたが）ったかも。またしばらくしてほかの人（ひと）に「仲間（なかま）だ」と言（い）われ「ちがう」と答（こた）え、一時間（いちじかん）後（ご）、三度（さんど）目（め）に「知らない」と言（い）ってしまったのでした。

いの祈り 天のお父様、イエス様の言われたとおりにになりました。ペテロの心の中はきっと怖い気持ちで一杯（いっぱい）だったのでしょ。

3月26日（土）



ルカ 22・61～62

そして、外（そと）に出（で）て行（い）って、激（げ）しく泣（な）いた。
62節

「コケッコォー！」 ペテロはハッとしたでしょう。その時（とき）、そばを通（とお）られるイエス様（さま）がふりむいてペテロを見つめられたのでした。じつとペテロの眼（め）をのぞき込むようにして見つめられたのです。ペテロはそのイエス様のまなざし（な）の中で主（な）のお言葉（ことば）を思（おも）い出（だ）して、外（そと）へ出（で）て、男（おとこ）泣（な）きに激（げ）しく泣（な）きました。そのイエス様のまなざし（な）は、ペテロしか知りません。それは「祈（いの）ったよ、ゆるしているよ」と語（かた）ってくださっていたにちがいません。

いの祈り 天のお父様、すべてを見ておられ知（し）っておられ、でもゆるしてくださるイエス様のまなざし（な）のう（あ）ちを歩（あ）きたいです。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 23・13~25
身代わりの十字架
神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。

Ⅱコリント 5・21

目標

罪なき神の御子が私たちの身代わりに十字架にかかってくださったことを知る。

3月27日(日)

聖書
聖句

ルカ 23・13~25
神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。

Ⅱコリント 5・21

わたしたち人間は、みんな罪の中に生きてきました。初めの人アダムのおかげのためです。だから教えてもらわなくても、うそもつけるし、わがままも言えるし、けんかもできる！ のですね。でもイエス様は全然、罪を知らないし、一つも罪を犯したことの無いお方でした。そのイエス様が十字架につけられたおかげで殺人犯のバラバがゆるされたように、罪深いわたしの身代わりにイエス様が死んで罪がゆるされるのです。

いの祈り

天のお父様、イエス様の身代わりの十字架を心よりありがとうございます。罪がゆるされる喜びを感謝します。

3月28日(月)

聖書
聖句

ルカ 23・13~16
この人は死に値することを何もしていない。 15節

ローマ皇帝テベリオに任命されたユダヤ州第5代総督のポンテオ・ピラトは、ユダヤ人が訴えてきたイエスには、訴えられるような罪は少しもなかったと祭司長たち、役人たち、民衆に言いました。その時のユダヤの王ヘロデも同じように言って、ピラトから送られてきたイエスを送り返してきました。「だから私は、むちで懲らしめたいので釈放する」と。イエス様は一つも罪を犯されなかったので当たり前でした！

いの祈り

天のお父様、ひどいさばきさえしたピラトやヘロデでさえもイエス様にはどんな罪もみとめられなくて当然でした。

3月29日(火)

聖書
聖句

ルカ 23・17~19
しかし彼らは一斉に叫んだ。「その男を殺せ。バラバを釈放しろ。」 18節

なぜか祭があるたびに、ピラトはひとりの囚人をゆるしてやることになっていたようです。それでピラトは「むちで懲らしめたいので釈放する。」と言ったのでした。ところがです。ユダヤ人たちは、そんなことはあってはならないとばかりに叫んで言いました、「その男を殺せ。バラバを釈放しろ。」と！ バラバ…この人は暴動と殺人の罪で獄にいた人なのです。この人をゆるすですって…?!

いの祈り

天のお父様、人間の判断には狂いが多いです。さらに多く集まる群衆となるとますます狂うことがよくわかります。

3月30日(水)

聖書
聖句

ルカ 23・20~21

ピラトはイエスを釈放しようと思っ
て、再び彼らに呼びかけた。

20節

ある時には、とてもひどいさばきをしたピラトも、このイエス様のことについては、「イエスを釈放しようと思っ
て」いました。そこで、もう一度、彼らに呼びかけました、「彼を釈放してやることにしてはどうか」と。しかし、どうでしょう。彼らはますます声高く叫び、いえ、もうわめきたてて言いつづけました。

「十字架だ。十字架につける!」と。恐しい恐しい叫びが響き続けたのです。

いの
祈り

天のお父様、「群衆心理」とはとても怖い
です。「赤信号みんなで渡れば怖くない」とは、とんでもない事
です。

3月31日(木)

聖書
聖句

ルカ 23・22~23

彼らは、イエスを十字架につけるよ
うに、しつこく大声で要求し続けた。そし
て、その声がいよいよ強くなっていった。

23節

それでもまだピラトの良心(みんなの心に
神様が与えていてくださるものですね。悪いこ
とをするときチクチク痛む心です)は、彼らの叫
びを受け入れることができません。それで、三
度目に言います、「この人がどんな悪いことをし
たというのか。彼には、死に値する罪が何も見
つからなかった。だから私は、むちで懲らしめ
たうえて釈放する」と。しかし、です。今度は
彼らは大声をあげるだけでなくピラトに詰め寄
り「十字架だ!」と要求します。そしてつい
に、その声が勝ったのです。

いの
祈り

天のお父様、ひとりの人が、良心の
声に聴き従いぬくことがどれほどに
難しいことなのか、よくよく
わかります。

4月1日(金)

聖書
聖句

ルカ 23・24~25

それでピラトは、彼らの要求どおり
にすることに決めた。

24節

ピラトの良心の声は、群衆の声に打ち負か
されてしまいました。そして、三度も頑張った
ピラトでしたが、ついにバラバをゆるし、イエ
スをユダヤ人たちの手に渡すことに決定した
のでした。普通に考えても不可解な、つまり、
とてもわからない、おかしいことです。罪の
かけらもないイエス様が十字架で処刑されて、
恐しい暴動・殺人犯のバラバがゆるされる!
まさに身代わりの十字架そのものだったの
ですね。

いの
祈り

天のお父様、このバラバがわたしの
だともよくわかりました。イエス様の
身代わりの十字架によるゆるしを感謝
します。

4月2日(土)

聖書
聖句

Ⅱコリント 5・14~17

生きている人々が、もはや自分のた
めにではなく、自分のために死んでよみが
えった方のために生きるためです。

15節

罪深いわたしの罪が、全部ゆるされる所、そ
れがイエス様の身代わりの十字架です。そして
そればかりでなく、このように考えると、パウ
ロは書いています。つまり、イエス様がわた
したちすべての者のために死んだことは、すな
わちわたしたちもそこで一度死んだことになり
ます。そして、今生きているものはもはや自
分のためにではなく、死んでよみがえられた
イエス様のために生きる者とされています。本
当に新しい生き方ですね。

いの
祈り

天のお父様、イエス様のために、イエス
様と共に、イエス様を心に生きられる
祝福を本当にありがとうございます。